

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 30 日現在

機関番号：80101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320174

研究課題名(和文)千島列島における先史文化の考古学的基礎研究 特に北方四島を中心に

研究課題名(英文)Archeological Basic Research of the Prehistoric Culture in Kuril Islands

研究代表者

右代 啓視 (USHIRO, Hiroshi)

北海道開拓記念館・学芸部・学芸員

研究者番号：30213416

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2011～2014年に千島列島における先史文化の考古学的基礎研究を実施した。研究目的は、第一に北海道の先史文化研究が最も遅れている北方四島を調査対象とし、現地調査により遺跡の分布や特性を把握し、先史文化研究の基礎データを構築すること、第二に日本とロシアが本研究をつうじ、学術的な交流や友好を深めるとともに文化遺産の重要性を認識し、両地域間の研究の進展を目指すこととした。この成果は現地での遺跡確認調査と、国後島と色丹島で戦後はじめての考古学的調査を実施した。国後島では65カ所の遺跡を確認した。色丹島では22カ所の遺跡を確認した。

研究成果の概要(英文)：This study is conducted from 2011 to 2014, archeological Primary Subjects of Research on the Prehistoric Culture of Kuril Islands. The research purposes are:(1) to grasp the distribution and characteristics of archaeological sites and construct basic data for studies of prehistoric culture through field surveys on the four northern islands, which lag behind other places in studies of Hokkaido's prehistoric culture;(2) to recognize the importance of cultural heritage and aim to advance between research of both regions, as well as deepening academic exchanges and friendship between Japan and Russia through this study. The results yielded an archeological site confirmation survey and the first-ever post-war archeological survey on Kunashiri and Shikotan Islands. 65 places archeological sites were confirmed on the Kunashiri Island. 22 places archeological sites were confirmed on the Shikotan Island.

研究分野：考古学

キーワード：北方四島 北方文化 縄文文化 続縄文文化 オホーツク文化 擦文文化 アイヌ文化

1. 研究開始当初の背景

千島列島の考古学的研究は、戦前に多くの研究者が着手し、日本における北方域の歴史認識や人種論争が展開されたが、この地域でのフィールド調査がきわめて少ない。特に、北方四島は日本領時代に行われた研究がわずかしかなく、それを手がかりに、戦後、北方文化の研究が進められてきた。しかも、ロシアと日本の両国に千島列島出土の考古資料が分散され総体的な把握が未着手のまま現在にいたっている。また、北方四島は領土問題が未解決のため、現地でのフィールド調査が極めて困難なのが現状であり、半世紀以上もの研究の空白がある。

研究代表者は、これまで北海道を中心にサハリン、大陸などの地域の考古学的調査を行い、過去 2,000 年の先史文化について研究を進めてきた。この成果は、北東アジアにおけるフゴッペ洞窟(国指定史跡)の位置づけ(統縄文時代)、北海道の洞窟遺跡の特性、

オホーツク文化の成立過程と地域戦略、擦文文化の拡散と地域戦略、北東アジアにおけるアイヌ文化のチャシの位置づけ、北方諸地域の要害遺跡の成立過程、さらには、

北方文化と気候変動(温暖期と寒冷期の存在)のかかわりなど、文化的な画期、特性について明らかにしてきた。これらの研究を進めるなかで、千島列島の最も重要な考古学的基礎データが欠落していることが研究の妨げとなっている。したがって、北方四島の考古学的な基礎データの構築が研究を進展させる優先課題となり、本研究を進めるのが急務となった。

本研究を進めることは、北海道～千島列島～カムチャツカへつながる先史文化の人的な交流、文化接触など、北海道と大陸をつなぐ中間領域の先史文化構造が明確になり、千島アイヌ研究につながる重要な基礎研究として位置づけられることは確実である。また、北方文化研究の空白とされる基層的な課題に着手できるとともに、日露間相互の学術的な交流の環境を整えることができる。さらに、調査が困難である北方四島でのフィールド調査は、平成 19・20・22 年度に外務省が進める「ビザ無し交流」の学術専門家枠を利用して、研究代表者が所属する北海道開拓記念館と国後島古釜布郷土博物館との学術交流を実施し、研究代表者は学術研究の連携や現地での調査体制、受入の準備を整えてきたところである。さらに、千島列島出土の考古資料を収蔵するサハリン州立郷土博物館や国立カムチャツカ教育大学の研究者との連携が可能であり、研究体制が整ったことにある。

2. 研究の目的

日本列島の北部に位置する北海道は、2,000 年前ころから地域色の強い先史文化(統縄文文化、オホーツク文化、擦文文化、アイヌ文化)が展開し、中央の先史文化とは違う特異な発展過程をたどる。地勢からみると、北にサハリン、東に千島列島と、大陸と北海道の先史文化をつなぐ中間的な領域が存在し、特殊な気候環境や豊かな資源をめぐる文化的な交流がさかんに行われた地域である。近年、サハリンの先史文化研究は日露間で著しい進展がみられるが、千島列島においては大きく立ち遅れている。しかも、明治 8 年(1875)の樺太千島交換条約から昭和 20 年(1945)の第二次世界大戦終戦まで千島列島が日本領であり、現在は北部から中部千島はロシア領となり、北方四島は実効支配下におかれ領土帰属問題が解決されていない。日本領でありながら北方四島の現地調査は困難であり、考古学的な基礎情報が欠落している地域である。

したがって本研究は、千島列島における先史文化の研究を進めることで、特に北方四島を中心とした千島列島の重要な遺跡や考古資料の基礎的なデータを収集し、基礎資料の構築をはかることを目的とする。また、アイヌ文化研究、あるいは日本考古学研究において学史的な人種論争が盛んであった地域であり重要な意味をもつフィールドである。本研究は、困難である北方四島のフィールド調査を実施し、国内外に保管されている千島列島出土の考古資料情報を収集し、さらには北方四島にかつて在住していた人たちからの遺跡情報を収集することで、千島列島の先史文化に関する基礎データの構築を目指し、この地域の人的な交流、文化接触など、北海道と大陸をつなぐ中間領域の先史文化構造を明らかにする。

3. 研究の方法

研究の方法は、北方四島のフィールド調査(国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島)を中心に、遺跡のデータを収集することと、遺跡の立地環境を把握することである。また、北方四島のアイヌ文化期のチャシ、千島アイヌが移住した跡地の状況について、現地で調査し記録することである。

さらに、国内外の千島列島考古資料、北方四島の遺跡情報などの収集を実施し、考古学的な基礎データを収集し、また現存する千島アイヌの民族資料の調査を実施することである。

これらを総合的に基礎的なデータを解析、分析、検討し、本研究の目的を達成する方法をとった。

4. 研究成果

【平成 23 年度】

北方四島のフィールド調査 / 国後島の遺跡調査: 国後島の中部～南部地域の調査を実施した。中部域では、古釜布砂丘遺跡(アイヌ地)の遺跡確認調査、南部域ではケラムイ岬～シロマンベツ河口までの遺跡確認調査などを実施した。特筆すべき調査成果は、シロマンベツ川河口右岸台地遺跡から石刃鏃を採集し、初めて北方四島に石刃鏃文化の拡がりを確認した。

国内の千島列島考古資料・遺跡情報調査 / 大学・博物館所蔵資料調査: 元北方四島在住者の聞き取り調査を中心に実施した。大学・博物館などでは、資料収集を行なった。

研究会・報告会の開催 / 研究会・報告会などで調査成果などを報告。北方四島の学術専門家交流に際しては、記者会見などを開き研究の成果報告を行なった

【平成 24 年度】

北方四島のフィールド調査 / 色丹島・国後島の遺跡調査: 色丹島の北部と国後島の中部の調査を実施した。色丹島では、穴澗、斜古丹、チボイで、遺跡踏査を行ない、8つの遺跡を確認した。国後島中部域では、古釜、ニキシヨロで遺跡踏査を実施した。特筆すべき調査成果として、色丹島の調査は戦後初めての学術的調査で、縄文時代前期の温根沼式土器の拡がり、チボイチャシ、千島アイヌの居住地跡などを確認した。

国内の千島列島考古資料・遺跡情報調査 / 大学・博物館所蔵資料調査: 国立民族学博物館、函館市博物館、釧路市立博物館、アイヌ民族博物館などの千島関係の所蔵資料調査を実施した。また、元北方四島在住者の聞き取り調査を実施した。

国外の千島列島考古資料・遺跡情報調査 / サハリン調査: サハリン州郷土博物館には、想像以上に千島列島の考古資料が収集・保管しており、今後、継続的な調査が必要であることを認識した。

研究会・報告会の開催: 研究会・報告会などで調査・研究成果を報告した。北方四島の学術専門家交流に際しては、記者会見などを開き研究の成果報告を行なった。

【平成 25 年度】

北方四島のフィールド調査 / 色丹島の遺跡調査: 色丹島の南西部のマスバ、ノトロで遺跡踏査を実施した。特筆すべき調査成果として、新たに5つの遺跡を確認し、色丹島のこの地域の調査は戦後初めての学術的調査となった。このなかでも、アイヌ文化期のチャシについては、17～18世紀の消滅期のも

と考えられるもので貴重な発見となった。また、千島アイヌの居住地跡の確定、千島アイヌ慰霊碑の確認など現地調査を実施した。

国内の千島列島考古資料・遺跡情報調査 / 大学・博物館所蔵資料調査: 国立民族学博物館、別海町郷土博物館、真田宝物館、安芸高田市歴史民俗博物館、常楽寺などの千島関係の所蔵資料調査を実施した。特に千島アイヌ関係のテンキ資料、クナシリメナシの戦いと関係する「夷酋列像」の撮影・資料調査を実施した。また、根室市を中心に元北方四島在住者の聞き取り調査を実施した。

国外の千島列島考古資料・遺跡情報調査 / サハリン調査: サハリン州郷土博物館の考古学の研究者と北方四島の遺跡、遺物などの情報を交換した。

研究会・報告会の開催: 研究会・報告会などで調査・研究成果を報告した。北方四島の学術専門家交流に際しては、記者会見などを開き調査・研究の成果報告を行なった。

【平成 27 年度】

北方四島のフィールド調査 / 色丹島の遺跡調査: 色丹島の北東部のイネモシリ湾の北部(湾奥部)周辺の地域を踏査した。その結果、新たに8カ所の遺跡を確認した。時期は、縄文～続縄文文化期、オホーツク文化期、擦文文化期、アイヌ文化期である。この地域は戦後初めて調査となり、17～18世紀に消滅するアイヌ文化期のチャシを確認するなど重要な調査となった。また、北方四島で採集の黒曜石とカムチャツカ産の産地分析を行なった。

国内の千島列島考古・遺跡情報収集 / 大学・博物館所蔵資料の調査: 国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、釧路市立博物館などで資料調査を実施した。特に千島アイヌ関係のテンキ資料、クナシリメナシの戦いと関係する「夷酋列像」の撮影・資料調査を実施した。

研究成果の普及 / 研究会・報告会の開催: 研究会・報告会などで調査・研究の成果を報告した。北方四島の学術専門家の交流では、記者会見などを開き調査・研究の成果を報告した。

考古学的な資料調査に加え、千島アイヌの民族的調査やクナシリメナシの戦いに関係する「夷酋列像」の調査を実施し、研究成果の一部を公開する展覧会を北海道博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館と連携し、巡回展を「夷酋列像-蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界-」を実施することとなった。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

右代啓視・鈴木琢也・村上孝一・スコヴァティチューナ,V.M.;北方四島の先史文化と博物館交流(). 北海道開拓記念館研究紀要. 第 40 号,2012, pp.143-154.〔査読有〕

右代啓視; 過去 2,000 年の気候変動と北方文化. 地球温暖化の環境考古学・歴史学に関する文献レビュー. 2012, p.p.289-297.〔査読無〕

右代啓視・鈴木琢也; 北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり 2012 年の学術交流から . 北海道開拓記念館だより. 2013, Vol.42 No.4, pp.6-6.〔査読無〕

右代啓視・鈴木琢也・藪中剛司・高島高宗・村上孝一・スコヴァティチューナ,V.M.;北方四島の先史文化と博物館交流(). 北海道開拓記念館研究紀要. 第 41 号,2013, pp.53-82.〔査読有〕

右代啓視・鈴木琢也; 北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり 2013 年の学術交流から . 北海道開拓記念館だより. 2013, Vol.43 No.4, pp.6-6.〔査読無〕

右代啓視・鈴木琢也・藪中剛司・高橋勇人・村上孝一・スコヴァティチューナ,V.M.;北方四島の先史文化と博物館交流(). 北海道開拓記念館研究紀要. 第 41 号,2014, pp.97-126.〔査読有〕

右代啓視; 北方四島の考古学研究. 飯島武次編「中華文明の考古学」. 同成社, 2014. pp.409-424.〔査読無〕

右代啓視; オホーツク文化のシャマニズムを探る オホーツク文化の信仰・儀礼 . シャマニズムの淵源を探る. 弘前学院大学地域総合文化研究所. 2014. pp.113-140.〔査読無〕

右代啓視; 新・千島紀行 発見された千島列島の先史文化 . 函館市北方民族資料館. 2014. p.13.〔査読無〕

右代啓視; 日露両国間の歴史的経緯からみる領土問題について - 文化遺産からみた北方四島 - . 北方領土復帰期成同盟 2015. pp.1-15.〔査読無〕

右代啓視・鈴木琢也・藪中剛司・高橋勇人・村上孝一・スコヴァチツィーナ, V.M.; 北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(). 北海道開拓記念館研究紀要. 第 42 号.2015, pp.37-66.〔査読有〕

〔学会発表〕(計 13 件)

右代啓視. 北海道の歴史と北方四島について. 北海道教育庁, 2011.8.11.北海道空知教育局.岩見沢

右代啓視; 過去 2,000 年の気候変動と北方文化. 国際日本文化センター. 2012.2.3. 東京農大オホーツクキャンパス. 網走

右代啓視; 北方四島の考古学. 北方島文化研究会. 2012.3.17.札幌

右代啓視. 北海道の歴史と北方四島について. 北海道教育庁, 2012.12.27.北海道空知教育局.岩見沢

右代啓視; 北方四島と先史文化遺産. 札幌市社会福祉協会. 2013.1.15.札幌市社会福祉総合センター.札幌

右代啓視; 千島列島の考古学. 道北地区博物館等連絡協議会. 2013.2.17.旭川市博物館.旭川

右代啓視. 北方四島と先史文化遺産. 江別市教育委員会, 2013.7.13.江別市野幌公民館.

右代啓視; 北方四島の考古学調査 2013 の色丹島調査より . 北方島文化研究会. 2013.7.13.稚内

右代啓視. 北方四島の歴史について. 苫前町教育委員会. 2013.7.18. 苫前中学校.苫前

右代啓視. 北海道の歴史と北方四島について. 北海道教育庁, 2012.12.6.北海道空知教育局.岩見沢

右代啓視. しられざる北方四島と先史文化. サイエンスフォーラム in さっぽろ. 2014.6.15. 札幌市中央図書館. 札幌

右代啓視. 新・千島紀行 発見された千島列島の先史文化 .2014.10.25. 函館市北方民族資料館.函館

右代啓視; 日露両国間の歴史的経緯からみる領土問題について - 文化遺産からみた問題解決の道 . 平成 26 年度北方領土問題理解促進事業に係る日ロシンポジウム. 2015.2.15. 北方領土復帰期成同盟. 札幌.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

右代啓視 (USHIRO Hiroshi)
北海道開拓記念館・学芸部・学芸員
研究者番号：30212416

(2)研究分担者

なし ()
研究者番号：

(3)連携研究者

鈴木琢也 (SUZUKI Takuya)
北海道開拓記念館・学芸部・学芸員
研究者番号：40342729

(4)研究協力者

村上孝一 (MURAKAMI Koichi)
藪中剛司 (YABUNAKA Takeshi)
高畠孝宗 (TAKABATAKE Takamune)
山谷文人 (YAMAYA Fumihito)
高橋勇人 (TAKAHASI Yuto)
スコヴァチツィーナ, V. M. ()
グルシコワ, G. U. (Grusyukowa, G.U.)
イーゴリー, S. A. (Igor, S.A.)
オリガー, S. M. (Olga, S.M.)
プタシェンスキー (Patasyenski)